

遠足

旅行

手と心でつながる わかりあえる喜び



左手掌の脇で掌を向き合せて右手2指を小さく回す

かきばらの風 ~笑顔あふれる松ろう~

第47号 令和3年6月2日

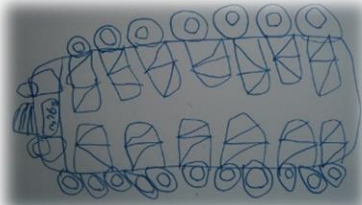
松江ろう学校 校長だより 福島朗博

手を立てて左手親指と右手小指つけたまま両手を前へ出す

ウィズコロナ2021春の遠足・旅行

4月と5月に幼稚部親子遠足、小学部遠足、高等部修学旅行がありました。幼稚部は親子でフォーゲルパークへ、小学部は大山フィールドアスレチックに、コロナ感染対策のため、本校スクールバスと盲学校のスクールバスあるいは貸切バスを利用して2台で行きました。幼稚部では、事後に遠足の絵を描かせたら、年中組さん3名そろってバスの絵。初めて乗ったバスの体験がよほど印象に残ったようです。小学部は広大な敷地をほぼ独占状態（他は親子連れ10名）で思い切り体を動かしてコロナ禍のストレスを発散することができました。高等部は裏面をご覧ください。どこにも行かなかった中学部は、職場体験に向けて準備を進めました。（次号で！）

幼稚部遠足



バスにのったよ
(年中児画)

小学部遠足

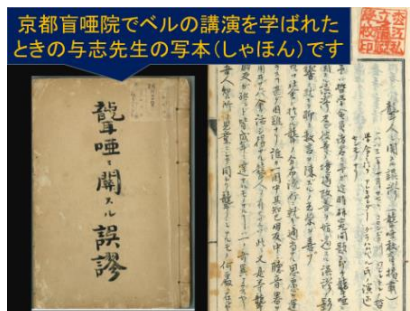


■開校記念式（5/18） 創立者 福田与志先生の「学びの精神」を受け継いで今を生きる

明治38年5月20日に本校の前身である松江私立盲啞学校が開校して以来、今年で116周年を迎えました。11月の与志先生の命日に行う追悼式では早すぎる一生をろう教育に捧げられた与志先生の「愛の精神」を説くのに対し、開校記念式では、開校に至った経緯について、きこえない少女石橋ハルさんとの出会いをもとに京都盲啞院に単身転職して勉学に励まれた与志先生の尊い「学びの精神」を、感謝の気持ちをこめて全校に伝えるようにしています。それには、現存する与志先生の自筆による写本（電話の発明家で、妻がろう者であったグラハム・ベルの講話の原本を写したものとされる）を直接に見て、実物を肌で感じてもらうことが一番と考えて紹介しています。今回は与志先生画作になる掛け軸も初公開しました。図工や美術が大好きな子どもたちには、絵心ある与志先生がより身近に感じられたのではと思います。記念式が終わった後、子どもたちは壇上に寄ってきて、写本と掛け軸をしばらく思い思いに眺めていました。



京都盲啞院で教える与志先生



京都盲啞院でベルの講演を学ばれたときの与志先生の写本(しゃぼん)です

与志先生も絵の作品があります！



かき「柿の図」



うちわ「団扇の図」



■高等部修学旅行（4/21～23）～島根再発見！の旅 高等部の巻～

これまで東京方面に向かうことの多かった高等部の修学旅行ですが、コロナ禍のために昨年度の中学部と同様、行き先を県内に変更しました。石見銀山中村ブレイス会社見学、そば打ちやお点前、ネックレスやキャンドル作り、藻塩作りなどの様々な体験活動、大森の町での自由行動と高等部らしい活動が満載で、忘れられない島根再発見の旅となりました。旅行を終えて、仲間の絆も一段と深まった様子の生徒たちに「推しの場所」についてコメントしてもらいました！

- 1 日目：川西そば工房～奥出雲やまなみファーム～Tutti～可部屋集成館～奥出雲多根自然博物館（泊）
- 2 日目：石見銀山世界遺産センター～龍源寺間歩～大森の町散策～中村ブレイス～温泉津温泉（泊）
- 3 日目：仁摩サンドミュージアム～鷺浦（藻塩作り・クルージング）～日御崎～木綿街道～帰校

奥出雲や大田、平田に行ってみて、島根はこんなものがあるんだと知りました。私が気に入った所はTuttiです。私は物作りが好きなので、体験することができて嬉しかったです。将来Tuttiみたいな仕事ができたらいいなと思いました。島根のたくさんの魅力を知ることができ、うれしかったです。またTuttiや仁摩サンドミュージアムに行きたいです。



3日間の修学旅行で一番印象に残ったのは体験や見学で案内や教える方が私たちを温かく歓迎してくれたことです。Tuttiは本来ネックレス作りはなかったけど、私たちのために準備してくれました。鷺浦クルージングは風が強いため遠くまで出航できなかったけど、特別に港の周辺をクルージングしていただきました。他の体験や見学先でも教え切れないくらい温かい気遣いをしてくださったので、私たちも心温まり、楽しい時間を過ごせました。いつかまた行ける日を楽しみにしています。

龍源寺間歩です。自転車で行けたので、楽しかったです。また行きたいです。お勧めです。



鷺浦での藻塩（もしお）作り体験。初めての体験でした。火起こしで木炭からなかなか火が出なかったりと少し苦戦しました。普通の塩と違って、海水とあらめという海藻の煮汁を組み合わせた茶色い塩だということがわかり、勉強になりました。さらに鷺浦での自然豊かな山と美しい海に囲まれて絶景でした。



今まで行ったことがない所がたくさんありました！その中で大森めぐりを紹介します。いろいろなカフェや小物がたくさんのお店があり、歴史が感じられるような街でした。行きたかった店が休みで残念だったけど、次こそ開いていたらぜひ行こうと思います。歩いているとき、奇跡の2匹の猫にも出会いました。大森めぐりは楽しかったので、行ったことがない人はぜひ行ってみてください。



中村ブレイス見学で本物のような義手や義耳に見入りました。心に残った言葉は「利益があるからするのではなく、地域のためにする。」人を喜ばせることの大切さを覚えて、今後の進路をどうするか考えていきたいと思いました。



事後学習では、それぞれの体験活動について成果や感想を模造紙にまとめ、授業参観でポスター発表をしました。保護者や教員を前に、思いのこもった説明ができました。



■子育てコラム

「人間が成長したときに心のこもったことばが使えるかは、子ども時代に自分が心のこもったことばがかけられたかに関係する。」（岡本夏木）

「一次のことば」と「二次のことば」（今で言う、幼少期の「生活言語」と学童期の「学習言語」です）を考えられた言語学者だけに、日本語や手話を特別な思いをもって大事に育む私たちには実に重みのある言葉です。合わせて、「子どもの情緒の安定は、いつも保たれていますか。」子どもが相手の気持ちや言葉を受け入れて、主体的に動けるための一番大事な準備になります。

このおたより「かきばらの風」のバックナンバーは松江ろう学校ホームページでご覧になれます。